

国際合弁企業にかんする研究動向

—Hist Cite によるシステマティック・レビュー—

関 智 宏
松 野 奈 都 子
曾 我 寛 人

- I はじめに
- II 方法
- III 結果
 - III-1. データとしての検討対象論文の特徴
 - III-2. 引用マップの作成
- IV 発見事実
- V 小結

I はじめに

本研究は、国際合弁企業（以下、IJV（International Joint Venture）とする）研究にかんするシステマティック・レビューを行うことを目的とする。

IJV にかんする研究は多くの領域で検討がなされていることから、主たる領域を特定するためには、システマティック・レビューを行うことが必要となる（Kraus et al., 2014; Xi et al., 2015）。そこで本研究では、関（2021）および関・曾我（2022）で採用した方法、具体的には HistCite™ をもちいた引用分析を採用し、IJV 研究のシステマティック・レビューを行う。

システマティック・レビューは、あるデータベースや客観的な基準等により、検討対象の文献を選択することから、透明性と再現性を有する手法である（Liñán and Fayolle, 2015; Pittaway and Cope, 2007; Tranfield et al., 2003）。したがって、IJV 研究のおもな研究領域における研究動向の内実を明らかにするうえで有用である。

本論文の構成は以下のとおりである。第II節では、HistCite™ をもちいた引用分析の方法を説明する。第III節では、引用分析の結果を示す。第IV節では、その結果から明らかとなった発見事実を整理する。第V節は、小結である。

II 方 法

IJVに関連した文献のシステマティック・レビューを行うためには、検討対象の論文を収集する必要がある。本研究では、レビュー対象となる論文を収集するにあたって、Clarivate社の分析ツールであるWeb of Science™のプラットフォーム (Version 5.35)を使用した。2022年1月11日にWeb of Science™において、キーワードを「international joint venture」、検索対象期間を2021年12月31日まで、抽出対象を「Article」、領域を「Business」と「Management」として、検索を実施した。その結果、183本の論文が抽出された。その後、著者の2人がabstractを確認し、IJVと明らかに関係しない論文とメタ分析やシステマティック・レビューを行う論文の抽出作業を実施した。その結果、前者の論文として7本、後者の論文として1本、計8本を抽出した。そして、これらの論文を除外した175本の論文を検討対象とすることにした。

Web of Science™での検索では「international joint venture」を含んでいない論文を収集することができていない可能性がある。そこで、Web of Science™から落とし込んだテキストデータを、引用分析のソフトであるHistCite™ (Version 12.03.17)にインポートし、影響の大きい論文を含めること¹にした。具体的には、まず、HistCiteにインポートするテキストデータの引用文献情報における「Anonymous」と「No title captured」の箇所を個々の論文のPDFを確認しながら、修正する作業を行った。次に、そのファイルをHistCite™にインポートし、Cite Reference機能により被引用件数(レコード)を示し、これが「30」以上の文献12本を抽出した(表1参照)。そして、これらの論文のPDFファイルを著者の2人でIJVと関連する研究であることを確認した。これにより、175本に12本を加えた187本を検討対象とすることにした。なお、Web of Science™から落とし込んだ12本分のテキストデータにおける「Anonymous」と「No title captured」の修正作業を行った上で、175本のテキストデータと結合した。

本研究では、これらの文献について、引用分析を実施する。引用は、科学的なアイデアの概念的な相互関係を可視化するものであることから(Garfield, 1979; Small 1978)、引用分析では、引用と引用された著者や出版物との関係や、分析に用いた出版物のなかで、どの引用元の影響が大きいかといった文献同士の関係性やその関係性の強さを明らかにすることが可能である(Gundolf and Filser, 2013)。

1 HistCite™の使用方法については、関(2021)を参照のこと。

表 1 検討対象として追加する文献

no.	著者	刊行年	ジャーナル	被引用件数
1	Inkpen and Beamish	1997	Academy of Management Review	51
2	Kogut and Singh	1988	Journal of International Business Studies	49
3	Kogut	1988	Strategic Management Journal	46
4	Hamel	1991	Strategic Management Journal	45
5	Yan and Gray	1994	Academy of Management Journal	45
6	Geringer and Hebert	1989	Journal of International Business Studies	42
7	Geringer and Hebert	1991	Journal of International Business Studies	42
8	Lane et al.	2001	Strategic Management Journal	38
9	Hennart	1988	Strategic Management Journal	35
10	Steensma and Lyles	2000	Strategic Management Journal	34
11	Lyles and Salk	1996	Journal of International Business Studies	32
12	Beamish and Banks	1987	Journal of International Business Studies	31

出所：筆者作成

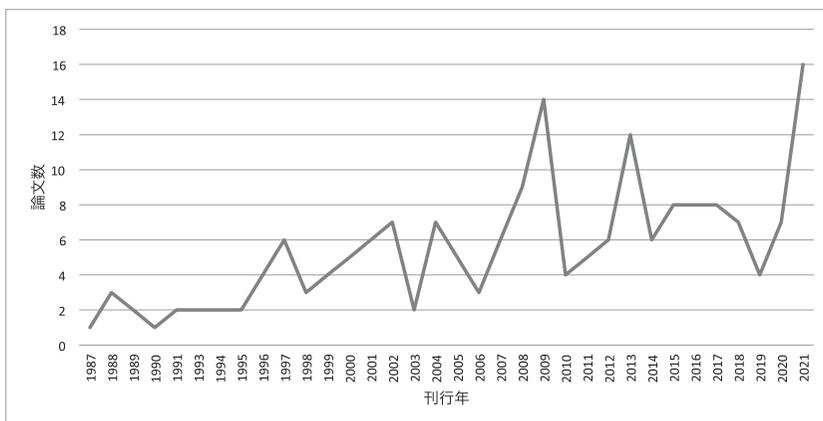
Ⅲ 結 果

Ⅲ-1. データとしての検討対象論文の特徴

HistCite™により、刊行年の傾向を示した Yearly output, 論文の著者の傾向を示した Author, 論文が掲載されたジャーナルの種別傾向を示した Journal, そして論文のキーワードの傾向を示す Word を確認した。

第 1 に、本研究で収集した 175 本の論文における刊行年の傾向（Yearly output）を確認した（図 1 参照）。1987 年から 1995 年までは毎年 1～3 本程度と少なく、1997 年から 2007 年までは年によりバラつきもあるが 5 本程度の論文が刊行されている。その後、

図 1 刊行年の傾向



出所：筆者作成

5本超の論文が刊行される年が現れ始め、2009年、2013年、2021年には10本以上の論文が刊行された。

第2に、著者の傾向を確認した。具体的には、収集した175本の論文の著者の傾向(Recs)と収集した175本の論文で引用されている文献を含めた著者の傾向(TLCS)に分けて、確認を行った。その結果、Recs順ではBeamish P. W.が9と最も多く、次いで、Luo Y. D.とShenkar O.で6と多くなっている(表2参照)。また、TLCS順ではLyles M. A.が130と最も多く、次いでBeamish P. W.が128、Hebert L.とKogut B.が100と多くなっている。ここから、これらの4人の研究がその後の研究展開に大きな影響を与えたと言える。なお、表のTGCSは、Web of Science™に収録されている文献の中で、われわれが収集した論文が引用されているその論文の著者の数を示している。

第3に、収集した論文が掲載されたジャーナルの傾向について確認した。具体的には、収集した175本の論文が掲載されたジャーナルの傾向(Recs)と収集した175本の論文で引用されている論文を含めたジャーナルの傾向(TLCS)に分けて、確認を行った。その結果、Recs順で、論文が最も多く掲載されていたジャーナルは、*Journal of International Business Studies*であり、論文数は23本と、収集した論文のうち約13.1%が

表2 論文の著者の傾向(Recs順) Recs \geq 3

	Author	Recs	TLCS	TGCS
1	Beamish PW	9	128	1704
2	Luo YD	6	9	147
3	Shenkar O	6	24	331
4	Ali T	5	6	63
5	Jin JL	5	10	62
6	Larimo J	5	6	42
7	Lyles MA	5	130	2519
8	Meschi PX	5	21	214
9	Geringer JM	4	99	1062
10	Gong YP	4	16	178
11	Nyaw MK	4	18	205
12	Park C	4	7	58
13	Salk JE	4	85	1915
14	Tsang EWK	4	34	463
15	Zhou KZ	4	10	62
16	Dhanaraj C	3	38	642
17	Hebert L	3	100	1103
18	Khalid S	3	1	33
19	Lin XH	3	17	201
20	Reuer JJ	3	10	112
21	Steensma HK	3	70	850

出所：筆者作成

表3 論文の著者の傾向(TLCS順) TLCS \geq 21

	Author	Recs	TLCS	TGCS
1	Lyles MA	5	130	2519
2	Beamish PW	9	128	1704
3	Hebert L	3	100	1103
4	Kogut B	2	100	4650
5	Geringer JM	4	99	1062
6	Salk JE	4	85	1915
7	Steensma HK	3	70	850
8	Yan AM	2	68	766
9	Inkpen AC	2	60	1017
10	Hamel G	1	50	2163
11	Gray B	1	49	594
12	Singh H	1	49	3106
13	Dhanaraj C	3	38	642
14	Lane PJ	1	38	1092
15	Hennart JF	1	36	918
16	Tihanyi L	2	36	588
17	Tsang EWK	4	34	463
18	Banks JC	1	33	324
19	Choi CB	2	24	145
20	Shenkar O	6	24	331
21	Meschi PX	5	21	214

出所：筆者作成

同誌に収録されていた。次いで、*International Business Review* が16本で9.1%、*Strategic Management Journal* が13本で約7.4%となっている（表4参照）。他方、TLCS順では、最も多いものが*Journal of International Business Studies* で368、次いで、*Strategic Management Journal* で268、*Academy of Management Journal* で55となった。*Journal of International Business Studies* と*Strategic Management Journal* におけるTLCSの値は200

表4 論文が収録されたジャーナルの傾向（Recs順）Recs \geq 3

	Journal	Recs	TLCS	TGCS
1	Journal of International Business Studies	23	368	7782
2	International Business Review	16	48	473
3	Strategic Management Journal	13	268	6949
4	Journal of Business Research	12	30	405
5	Asia Pacific Journal of Management	9	18	161
6	Journal of International Marketing	9	41	327
7	Journal of World Business	8	18	244
8	Journal of International Management	7	8	131
9	Management International Review	7	13	188
10	Industrial Marketing Management	5	9	75
11	International Journal of Human Resource Management	4	0	47
12	Asia Pacific Business Review	3	1	21
13	Journal of Management Studies	3	12	314
14	Organization Science	3	24	566
15	Service Industries Journal	3	0	27

出所：筆者作成

表5 論文が収録されたジャーナルの傾向（TLCS順）TLCS \geq 6

	Journal	Recs	TLCS	TGCS
1	Journal of International Business Studies	23	368	7782
2	Strategic Management Journal	13	268	6949
3	Academy of Management Journal	2	55	718
4	Academy of Management Review	1	53	821
5	International Business Review	16	48	473
6	Journal of International Marketing	9	41	327
7	Journal of Business Research	12	30	405
8	Organization Science	3	24	566
9	Asia Pacific Journal of Management	9	18	161
10	Journal of World Business	8	18	244
11	Management International Review	7	13	188
12	Journal of Management Studies	3	12	314
13	Industrial Marketing Management	5	9	75
14	Journal of International Management	7	8	131
15	Human Relations	2	6	128

出所：筆者作成

を超えているのに対して、3番目の *Academy of Management Journal* では100を下回っていることから、IJVの研究に対して、*Journal of International Business Studies* と *Strategic Management Journal* に掲載された論文が大きな影響を与えていることがわかる。

第四に、論文で使用されたワードの傾向について確認した。ここでも Recs と TLCS の順でそれぞれ確認を行った。論文抽出の際に使用したキーワードの「International」、 「Joint」、 「Venure」及び「Ventures」の単語以外を見ると、Recs 順では「Performance」が41、「Knowledge」が25、「Control」と「Management」が18となっており、TLCS 順では「Performance」が334、「Knowledge」が204、「Control」が155、「Learning」が139、「Bargaining」と「Power」が107、「Management」が101となっている。ここから、IJV 研究では、パフォーマンスを見る研究、学習やバーゲニング・パワーといった側面からの研究が多く行われていると言える。

表6 論文タイトルで使用されているワードの傾向 (Recs 順) Recs \geq 11

	Word	Recs	TLCS	TGCS
1	Joint	141	794	12438
2	International	131	633	10573
3	Ventures	77	606	10396
4	Venture	66	209	2536
5	Performance	41	334	4917
6	Knowledge	25	204	3090
7	Control	18	155	1619
8	Management	18	101	1175
9	China	17	71	920
10	Partner	17	92	2611
11	Emerging	15	27	380
12	Learning	15	139	4243
13	Perspective	15	44	439
14	Foreign	13	76	1226
15	Case	12	60	869
16	IJV	12	49	630
17	Role	12	45	953
18	Transfer	11	40	809

出所：筆者作成

表7 論文タイトルで使用されているワードの傾向 (TLCS 順) TLCS \geq 70

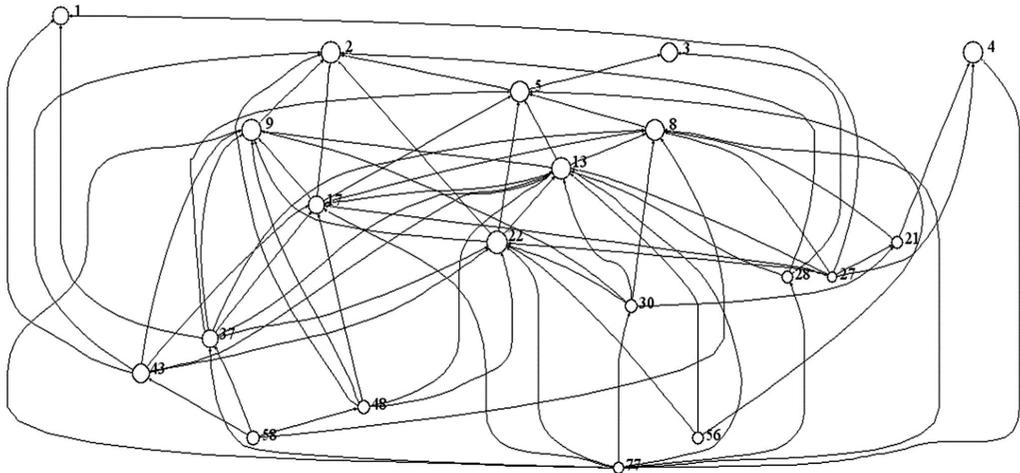
	Word	Recs	TLCS	TGCS
1	Joint	141	794	12438
2	International	131	633	10573
3	Ventures	77	606	10396
4	Performance	41	334	4917
5	Venture	66	209	2536
6	Knowledge	25	204	3090
7	Control	18	155	1619
8	Learning	15	139	4243
9	Bargaining	3	107	1450
10	Power	5	107	1511
11	Management	18	101	1175
12	Empirical	7	93	2227
13	Partner	17	92	2611
14	Economy	7	87	803
15	Perspectives	2	85	1806
16	National	6	82	3774
17	Equity	8	81	1400
18	Theory	4	78	1354
19	Instability	3	77	1028
20	Foreign	13	76	1226
21	Culture	8	75	3565
22	China	17	71	920
23	Survival	6	70	675

出所：筆者作成

Ⅲ-2. 引用マップの作成

HistCite™ により，論文引用の系統図（以下，引用マップ）を示すことにする。本研究では，抽出した論文リストにおける相互引用数（LCS: Local Citation Score）の多さを

図2 引用マップ (N=20, 53≥LCS≥13)



出所：筆者作成

表8 引用マッピングにおける論文

no.	map 上の no.	著者名	刊行年	ジャーナル	LCS	GCS
1	1	Beamish	1987	Journal of International Business Studies	33	324
2	2	Kogut	1988	Strategic Management Journal	51	1544
3	3	Hennart	1988	Strategic Management Journal	36	918
4	4	Kogut and Singh	1988	Journal of International Business Studies	49	3106
5	5	Geringer and Hebert	1989	Journal of International Business Studies	47	476
6	8	Geringer and Hebert	1991	Journal of International Business Studies	45	546
7	9	Hamel	1991	Strategic Management Journal	50	2163
8	13	Yan and Gray	1994	Academy of Management Journal	49	594
9	17	Lyles and Salk	1996	Journal of International Business Studies	34	594
10	21	Barkema and Vermeulen	1997	Journal of International Business Studies	16	395
11	22	Inkpen and Beamish	1997	Academy of Management Review	53	821
12	27	Makino and Beamish	1998	Journal of International Business Studies	13	182
13	28	Arino and de la Torre	1998	Organization Science	17	461
14	30	Yan and Zeng	1999	Journal of International Business Studies	19	172
15	37	Steensma and Lyles	2000	Strategic Management Journal	34	262
16	43	Lane et al.	2001	Strategic Management Journal	38	1092
17	48	Tsang	2002	Strategic Management Journal	20	322
18	56	Choi and Beamish	2004	Journal of International Business Studies	18	123
19	58	Dhanaraj et al.	2004	Journal of International Business Studies	22	535
20	77	Steensma et al.	2008	Journal of International Business Studies	14	53

出所：筆者作成

基準にして、影響の大きい論文に焦点を当てる。引用マップにおいては、上側が発行年の古いもの、下側が発行年の新しいものになっており、円が大きくなるほど引用数が多く、さらには、論文が結節点としてのノードとして表されている。

ここでは、LCS 上位の 20 本の論文が描写されるように、引用マップを作成した(図 2²)。その結果、LCS の値が 13 以上の論文をマップ上に描写することができた(表 8 参照)。LCS に注目すると、Inkpen and Beamish (1997), Kogut (1988), Hamel (1991), Kogut and Singh (1988), Yan and Gray (1994), Geringer and Hebert (1989; 1991) で、40 を超えており、引用マップにおいては影響力の高い論文であると言える。

IV 発見事実

前節での分析結果から以下のような発見事実を得られたと考える。

1 つ目に、本格的な IJV 研究は Beamish and Banks (1987), Hennart (1988), Kogut (1988), Kogut and Singh (1988) に端を発する点である(図 2 の no.1~no.4)。これらの研究の以前においては、内部化理論に基づいてジョイントベンチャーよりも完全子会社の方が、利益が高くなり適切なエントリーモードであるとされてきた。しかしながら、実際には、企業は IJV の設立を行ってきた。こうした状況に対して、Beamish and Banks (1987) は、取引費用に依拠しながら、発展途上国への進出といった特定の状況下では、ジョイントベンチャーの業績が良好であるという傾向を見出した。そして、ジョイントベンチャーが適切なエントリーモードとなりうることを示している。さらに、Hennart (1988) も、取引費用理論の観点から、ジョイントベンチャーが選択される理由について、中間投入物の非効率的な市場を回避するための装置として選択されるということを示している。

他方、Kogut (1988) は、ジョイントベンチャー設立の動機に関して、従来の取引費用理論と戦略的行動の観点のみでは、パートナーの持つノウハウやスキルといった暗黙的な知識を吸収するために設立されたジョイントベンチャーについて説明することができないことを指摘した。そして、こうしたジョイントベンチャーを説明するために、組織学習の手段としてジョイントベンチャーを捉えることの必要性を主張している。また、Kogut and Singh (1988) は、国際ビジネスに関する現象を捉える際に重要となる文化の観点から、買収、ジョイントベンチャー、完全子会社というエントリーモードの選択について実証分析を行っている。その結果、文化的距離が大きい場合には買収よりも

2 LCS を 5 以上として引用マップを作成することがある (Linneluecke, 2017, 8) が、この基準を用いて本研究で収集した論文をマッピングすると、48 本の論文が描写されることになる。その結果、IJV 研究の動向を把握することが難しくなるため、上位 20 本の論文を描写することにした。

ジョイントベンチャーを選択する傾向、そして、不確実性回避の傾向が強い場合には買収よりもジョイントベンチャーや完全子会社を選択する傾向が示されている。

このように、これらの研究は企業が完全子会社ではなくジョイントベンチャーによって海外進出する理由を説明するものであり、その後のIJV研究で依拠する理論や視座を明確にした研究群であるといえる。

2つ目に、Kogut and Singh（1988）（図2のno.4）を中心として展開された、Barkema and Vermeulen（1997）とMakino and Beamish（1998）（図2のno.21とno.27）といった研究群、すなわち、文化の側面に注目している研究群を特定した点である。具体的には、Kogut and Singh（1988）は進出先との文化的距離と進出企業の文化的特性に注目し、それらがエントリーモードの選択に与える影響を示している。Barkema and Vermeulen（1997）とMakino and Beamish（1998）は、彼らの研究の流れを引き継いだものである。Barkema and Vermeulen（1997）は、進出企業の母国と進出先の文化的距離に注目し、それがエントリーモードの選択（完全子会社とジョイントベンチャーのどちらを選択するか）だけではなく、文化的距離とIJVの存続可能性に与える影響についても定量的な分析を行っている。これらの結果から、文化的距離がエントリーモード選択やIJVの存続を左右することが示唆されている。

Makino and Beamish（1998）は、IJVを4つのタイプに分類し、それぞれのパフォーマンスや存続率について分析を行っている。4つのタイプとは、①株式提携している本国の企業によって設立されたジョイントベンチャー（Intrafirm JV）、②株式提携していない本国の企業によって設立されたジョイントベンチャー（Cross-national Domestic JV）、③本国と現地企業によって設立されたジョイントベンチャー（Traditional IJV）、④本国と第三国企業によって設立されたジョイントベンチャー（Trinational IJV）である。これらについてパートナー間の組織と国の文化的距離といった点から説明を加え、①は両方の文化的距離が小さく、③と④は組織と国の文化的距離が大きく、②は組織の文化的距離が大きい一方で、国の文化的距離が小さいとしている。

これらの研究から示されるように、パートナー間の文化的距離は、海外進出におけるエントリーモードの選択とIJVの存続可能性に影響を及ぼす重要な要因である。

3つ目に、その後のIJVの研究展開に影響を与えた研究群が特定された点である。具体的には、Geringer and Hebert（1989）（図2のno.5）、Geringer and Hebert（1991）（図2のno.8）、Hamel（1991）（図2のno.9）、Yan and Gray（1994）（図2のno.13）、Lyles and Salk（1996）（図2のno.17）、Inkpen and Beamish（1997）（図2のno.22）、Arino and de la Torre（1998）（図2のno.28）、Yan and Zeng（1999）（図2のno.30）、Steenma and Lyles（2000）（図2のno.37）、Lane et al.（2001）（図2のno.43）、Tsang（2002）（図2のno.48）、Choi and Beamish（2004）（図2のno.56）、Dhanaraj et al.

(2004) (図2の no.58), Steensma et al. (2008) (図2の no.77)) である。これらの文献は、大きく次の3つに分けることができる。

第1に、パフォーマンスや不安定性といったIJV研究における従属変数となるものについての検討を行ったものである。特に、Geringer and Hebert (1989; 1991)の研究は、IJVのパフォーマンスの測定方法についてその後の研究展開に影響を与えている。具体的には、Geringer and Hebert (1989)は、IJVのコントロールの概念化及び操作化を試み、さらに、コントロールとパフォーマンスの関係にかんする概念モデルを提示している。その2年後には、パフォーマンスにかんする主観的尺度と客観的尺度の信頼性と比較可能性について検討を行い、IJVのパフォーマンスを主観的あるいは客観的尺度のどちらか一方で尋ねることの妥当性を提示した (Geringer and Hebert, 1991)。これらの研究は、パフォーマンスの測定尺度の面で、以後の研究に影響を及ぼしていると推測される。

また、Yan and Zeng (1999)は、不安定性の概念の再構築を試みている。従来の研究は、不安定性の概念に理論的な定義づけがなされていない状況にあり、不安定性をIJVの失敗(買収や破綻)によって測定してきた。しかし、不安定性が必ずしもジョイントベンチャーの失敗をもたらすわけではない。また、ジョイントベンチャーの終了によって不安定性を捉えることには、外部環境や戦略の変化による終了や計画的な変化を説明することには適していない。このような理由から、彼らの研究では「IJVが戦略的方向性を変えること、オーナーシップやマネジメント構造を再構築すること、あるいは、IJVのパフォーマンスに影響を及ぼす親会社やパートナーとの関係の変化に関する程度のことである」と不安定性を定義づけている。

第2に、IJVのダイナミックな側面に着目した研究である。たとえば、Yan and Gray (1994)はパートナー間のバーゲニング・パワーが、IJVのコントロール構造に与える影響について検討している。彼らの研究において特徴的なのは、経時的な変化を捉えようと試みている点である。同様に、Arino and de la Torre (1998)もパートナー間の相互作用による変化を経時的に捉えている。彼らの研究では、パートナーからの評価によって、パートナーは契約の条件の再交渉を行うか、あるいは、関係のバランスを回復するために一方的に行動を修正するといった行動が発見された。このようなパートナーからのフィードバックは、パートナー間の関係の質に影響を与えるものなのである。また、Lyles and Salk (1996), Hamel (1991), Inkpen and Beamish (1997), Steensma and Lyles (2000)では、親会社とIJVの間での組織学習や知識移転といったダイナミズムに注目している。具体的には、親会社からIJVへの知識移転 (Lane et al., 2001; Lyles and Salk, 1996), IJVから親会社への現地知識やスキルといった知識移転 (Inkpen and Beamish, 1997), 親会社からのIJVに対するマネジリアル面での支援とIJVの学習 (Steensma

and Lyles, 2000）について検討がなされている。

第3に、知識移転や組織学習といった研究（Choi and Beamish, 2004; Dhanaraj et al., 2004; Lane et al., 2001; Steensma et al., 2008; Tsang, 2002）が新興の研究群として展開されている点である。Lane et al. (2001) は、IJV の学習とパフォーマンスについて、Cohen and Levinthal (1990) によって提示された3つに細分化された吸収能力の観点からモデル化及びそのモデルの検証を実証分析により行っている。分析結果から、信頼と海外親会社からのマネジメントサポートは学習ではなく、IJV のパフォーマンスと関係があることが示唆されている。

Tsang (2002) は、IJV から得た知識を獲得する企業のプロセスについて焦点を当て、分析を行い、監督努力 (overseeing effort) と経営関与 (managerial involvement) の両方が知識獲得の重要な経路であることが示している。Choi and Beamish (2004) は、IJV に対するマネジメントコントロールの方法とパフォーマンスの関係について、親会社のスキルやノウハウといった知識について企業特殊優位性を踏まえて、実証分析を行っている。その結果、自社の競争優位性を支配的にコントロールできる方法 (分割コントロール) では、他の方法と比べて、パフォーマンスが高いことを示している。

Dhanaraj et al. (2004) は、海外パートナーと IJV のマネジャーの間での関係的な埋め込みがどのように IJV に移転される知識のタイプ (例、暗黙知、形式知) に影響するのか、そして、若い IJV と古い IJV では関係的な埋め込みがどのように異なるのかについて検討している。さらに、形式知と暗黙知が与える IJV のパフォーマンスへの影響についても検討している。分析の結果から、紐帯の強さ、信頼、共有された価値とシステムは、とりわけ古い IJV において、暗黙知の移転に重要であることが示唆されている。Steensma et al. (2008) は、現地と海外のどちらの親会社がジョイントベンチャーを完全子会社化するかということについて、ジョイントベンチャーの学習の観点から検討する。ハンガリーのジョイント・ベンチャーをサンプルとした分析の結果から、合弁会社が海外の親会社からどの程度学んできたかは、どちらの親会社が完全所有権を獲得するかを間接的に決定することが示唆されている。

V 小 結

本研究では、IJV 研究にかんするシステムティック・レビューを行うことを目的としていた。そして HistCite™ をもちいた引用分析を行ったところ、IJV の本格的な研究は Beamish and Banks (1987), Hennart (1988), Kogut (1988), Kogut and Singh (1988) に端を発し、文化の側面に注目している研究群、その後の IJV の研究展開に影響を与えた研究群、知識移転や組織学習といった新興の研究群が存在することを確認すること

ができた。その後の IJV の研究展開に影響を与えた研究群は、パフォーマンスや不安定性といった IJV 研究における従属変数となるものについての検討を行った研究と IJV のダイナミックな側面に着目した研究に分類をすることができた。

本研究では、IJV 研究のうち引用回数の多い論文、具体的には、1999 年から 2008 年に刊行された被引用件数が 13 以上の論文を対象として上のような研究動向を把握することができた。しかしながら、比較的新しい研究は引用回数が少なくなってしまうことから本研究の検討対象から除外されている。そのため、IJV 研究における最新の研究動向を把握するには至っていない。今後の研究では、たとえば、2009 年以降の論文も含むように、たとえば、bibliographic network 分析を行い、IJV 研究における詳細な分析視座を明らかにすることが必要となる。

参考文献

- Arino, A and de la Torre, J. (1998) "Learning from failure: Towards an evolutionary model of collaborative ventures," *Organization Science*, 9(3), 306-325.
- Barkema, H. G. and Vermeulen, F. (1997) "What differences in the cultural backgrounds of partners are detrimental for international joint ventures?," *Journal of International Business Studies*, 28(4), 845-864.
- Beamish P. W. and Banks J. C. (1987) "Equity joint ventures and theory of the multinational enterprise," *Journal of International Business Studies*, 18(2), 1-16.
- Choi, C. B. and Beamish, P. W. (2004) "Split management control and international joint venture performance," *Journal of International Business Studies*, 35(3), 201-215.
- Cohen W and Levinthal D. (1990) "Absorptive capacity: A new perspective on learning and innovation," *Administrative Science Quarterly*, 35(1), 128-152.
- Dhanaraj, C., Lyles, M. A., Steensma, H. K., and Tihanyi, L. (2004) "Managing tacit and explicit knowledge transfer in IJVs: The role of relational embeddedness and the impact on performance," *Journal of International Business Studies*, 35(5), 428-442.
- Garfield, E. (1979) "Is citation analysis a legitimate evaluation tool?," *Scientometrics*, 1(4), 359-375.
- Geringer, J. M. and Hebert, L. (1989) "Control and performance of international joint ventures," *Journal of International Business Studies*, 20(2), 235-254.
- Geringer, J. M. and Hebert, L. (1991) "Measuring performance of international joint ventures," *Journal of International Business Studies*, 22(2), 249-263.
- Gundolf, K. and Filser, M. (2013) "Management research and religion: A citation analysis," *Journal of Business Ethics*, 112, 177-185.
- Hamel, G. (1991) "Competition for competence and interpartner learning within international strategic alliances," *Strategic Management Journal*, 1(12), 83-103.
- Hennart J. F. (1988) "A transaction costs theory of equity joint ventures," *Strategic Management Journal*, 9(4), 361-374.
- Inkpen, A. C. and Beamish P. W. (1997) "Knowledge, bargaining power, and the instability of international joint ventures," *Academy of Management Review*, 22(1), 177-202.
- Kogut, B. (1988) "Joint ventures: Theoretical and empirical perspectives," *Strategic Management Journal*, 9(4), 319-332.
- Kogut, B. and Singh, H. (1988) "The effect of national culture on the choice of entry mode," *Journal of International Business Studies*, 19(3), 411-432.

- Kraus, S., Filser, M., O'Dwyer, M., and Shaw, E. (2014) "Social entrepreneurship: An exploratory citation analysis," *Review of Managerial Science*, 8, 275-292.
- Lane, P. J., Salk J. E., and Lyles, M. A. (2001) "Absorptive capacity, learning, and performance in international joint ventures," *Strategic Management Journal*, 22(12), 1139-1161.
- Liñán, F. and Fayolle, A. (2015) "A systematic literature review on entrepreneurial intentions: citation, thematic analyses, and research agenda," *International Entrepreneurship and Management Journal*, 11(4), 907-933.
- Linnenluecke, M. K. (2017) "Resilience in business and management research: A review of influential publications and a research agenda," *International Journal of Management Review*, 19, 4-19.
- Lyles, M. A. And Salk, J. E. (1996) "Knowledge acquisition from foreign parents in international joint ventures: An empirical examination in the Hungarian context," *Journal of International Business Studies*, 27(5), 877-903.
- Makino, S. and Beamish, P. W. (1998) "Performance and survival of joint ventures with non-conventional ownership structures," *Journal of International Business Studies*, 29(4), 797-818.
- Pittaway, L. and Cope, J. (2007) "Entrepreneurship education," *International Small Business Journal*, 25(5), 479-510.
- 関智宏 (2021) 「企業家活動プロセスをめぐる諸研究をマッピングする－経営研究における影響力のある文献のシステムティック・レビュー－」『同志社商学』72(5), 929-969。
- 関智宏・曾我寛人 (2022) 「中小企業によるアントレプレナーシップとしての国際化にかんする研究動向－Hist Cite によるシステムティック・レビュー－」『同志社商学』73(5), 21-43。
- Small, H. G. (1978) "Co-citation context analysis and the structure of paradigms," *Journal of Documentation*, 36(3), 183-196.
- Steensma, HK; Barden, JQ; Dhanaraj, C; Lyles, M; Tihanyi, L (2008) "The evolution and internalization of international joint ventures in a transitioning economy," *Journal of International Business Studies*, 39(3), pp.491-507.
- Steensma, K. and Lyles, M. A. (2000) "Explaining IJV survival in a transitional economy through social exchange and knowledge-based perspectives," *Strategic Management Journal*, 21(8), 831-851.
- Tranfield, D., Denyer, D., and Smart, P. (2003) "Towards a methodology for developing evidence: Informed management knowledge by means of systematic review," *British Journal of Management*, 14(3), 207-222.
- Tsang, E. W. K. (2002) "Acquiring knowledge by foreign partners from international joint ventures in a transition economy: Learning-by-doing and learning myopia," *Strategic Management Journal*, 23(9), 835-854.
- Xi, J., Kraus, S., Filser, M., and Kellermanns, F. W. (2015) "Mapping the field of family business research: Past trends and future directions," *International Entrepreneurship and Management Journal*, 11(1), 113-132.
- Yan, A and Gray, B. (1994) "Bargaining power, management control, and performance in United States—China joint ventures: A comparative case study," *Academy of Management Journal*, 37(6), 1478-1517.
- Yan, A and Zeng, M (1999) "International joint venture instability: A critique of previous research, a reconceptualization, and directions for future research," *Journal of International Business Studies*, 30(2), 397-414.